

住宅用分電盤 感震機能追加用分電盤

- このたびは、本製品をお買い上げいただきまことにありがとうございます。
- この施工説明書と本分電盤に同梱の『住宅用分電盤 施工説明書』『パールテクト 施工説明書』をよくお読みの上、正しく施工してください。

安全上のご注意

施工、使用（操作・保守・点検）の前に必ずこの施工説明書とその他の付属書類をすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて熟知してからご使用ください。この施工説明書では、安全注意事項のランクを「警告」「注意」として区分してあります。

- 警告**：取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を招く可能性が想定される場合。
- 注意**：取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、傷害を招く可能性が想定される場合及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、**注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

警告



厳守

- 施工・点検時には上位遮断器を切「○」にし、電気がきていないことを確認してから行ってください。感電、短絡、中性線欠相による過電圧のおそれがあります。

■施工上のご注意

注意



禁止

- 高温・多湿・じんあい・腐食性ガス・振動・衝撃など、異常な環境に設置しないでください。感電・火災・不動作のおそれがあります。



厳守

- 既設の住宅用分電盤の近くに本製品が取り付け可能なスペースがあることを確認してください。
- 引込線に余長があることを確認してください。余長がない場合、再配線または電線の延長が必要です。
- 既設の住宅用分電盤の主幹容量を確認してください。既設の住宅用分電盤の主幹容量が75Aまで対応可能です。
- 既設の住宅用分電盤に、非常用回路、エコキュート、電気温水器など、1次送り回路がある場合は、本製品に1次送り回路を設置する必要があります。
- 太陽光発電システム用遮断器を搭載する場合、主幹用漏電遮断器は3P3E 逆接続可能型にする必要があります。
- 既設の住宅用分電盤で電気の使用量を計測している場合は、主幹用漏電遮断器で計測している電流センサ(C T)線が延長できるか確認してください。
- 電気工事は、有資格者（電気工事士）がおこなってください。
- ゴミ・コンクリート粉・鉄粉等の異物および雨水などが本製品内部に入らないように施工してください。感電・火災・不動作のおそれがあります。
- この住宅用分電盤は単相3線式（1φ3W）100V/200V専用です。
- 主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続してください。相を間違えると異常電圧が発生します。
- 導電部の接続ねじは、適正締付けトルク範囲内で確実に締め付け、必ず増締めをおこなってください。接続ねじの締め付けが不十分な場合、火災になるおそれがあります。
- 電線サイズは、最大想定負荷電流に適合したものを使用してください。
- 電線をスリーブのかしめで延長する場合は、スリーブのかしめは確実におこなってください。かしめ不良は発熱・発火の原因になります。
- 圧着端子・圧着工具はJISマーク品を使用してください。電線に適合した圧着端子を使用してください。
- 既設の分電盤に電流測定用C Tが設置されている場合、電線の接続替え時C Tをケーブルから切断した状態で放置しないでください。C Tが発熱します。
- 既設の分電盤にアース端子が設置されており、接地がおこなわれている場合は、感震機能追加用分電盤の速結式アース中継端子と3.5~14mm²の電線で接続してください。

●導電部の接続ねじ適正締付けトルク

| ねじの呼び径 | 締付けトルク N・m |
|--------|------------|
| M4 | 1.2~1.6 |
| M5 | 2.0~2.5 |
| M6 | 3.0~4.0 |
| M8 | 5.5~7.0 |

備考：M5ソルダレス端子の場合は
1.6~2.0N・m

●主幹ブレーカ・分岐ブレーカ推奨電線サイズ

| 主幹・分岐 ブレーカの定格電流 | 電線サイズ |
|--------------------|------------------------------|
| 20A | φ1.6, φ2.0 |
| 30A | φ2.6, 5.5~8.0mm ² |
| 40A | 8.0~14.0mm ² |
| 50A・60A | 14.0~22.0mm ² |
| 75A | 22.0~38.0mm ² |

■使用上のご注意

- 線間の絶縁抵抗測定は漏電遮断器が故障しますのでおやめください。
- 不要な動作を防ぐため、商品に表示してある主幹ブレーカ定格電流の80%以内でのご使用を強くお奨めします。
- 過電流または漏電発生時、既設、新設いずれの主幹ブレーカが動作するかは、それぞれの特性によるため特定できません。
- 既設の分電盤での中性線欠相発生時は、この感震機能追加用分電盤より負荷側にあるため、この分電盤の主幹ブレーカでは欠相検知できません。

■保守・点検上のご注意

- 保守・点検は、専門知識を有する人がおこなってください。
- 保守・点検は、上位遮断器を切「○」にし、電気がきていないことを確認してからおこなってください。感電、短絡のおそれがあります。

■お願い

- 主幹ブレーカが動作した場合は、感震機能追加用分電盤と既設の分電盤両方の主幹ブレーカを確認する旨、取扱者様へお伝えください。

■配線について

⚠ 注意

●引込線を既設の分電盤から感震機能追加用分電盤の主幹ブレーカへ接続し直す必要があります。

参考) 引込線の余長が不足している場合、下記のいずれかの方法で接続してください。

- ①新しい電線を引き直して接続
- ②電線を延長して接続 ※
※延長する電線の接続は、裸圧着スリーブ「重ね合わせ用スリーブ」(P形)をご使用ください。
※接続部は、容易に点検できる場所に配置ください。



厳守

| 電線の組み合わせ | スリーブ呼称 |
|--|-------------------|
| 5.5+5.5mm ² 8+8mm ² | 14mm ² |
| 14+14mm ² | 38mm ² |
| 22+22mm ² | 60mm ² |



スリーブのかしめはJIS規格(JIS C 9711 屋内配線用 接続工具)に適合し、かつスリーブ径に適した圧着工具で確実にかしめてください。(かしめ不良は発熱・発火の原因になります) かしめ後はスリーブ部に絶縁テープを巻いてください。

●絶縁テープによる被覆は、内線規程 1335-7の右表に従い確実にこなってください。

1335-1表 絶縁テープによる低圧絶縁電線の被覆の方法の例

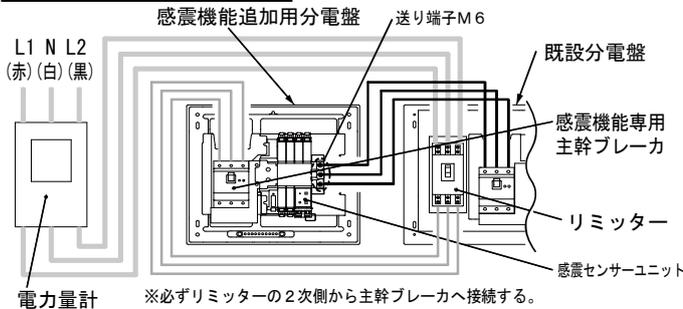
| 絶縁テープの種類 | 黒色粘着性ポリエチレン絶縁テープを用いる場合 | ビニルテープを用いる場合 |
|----------|---------------------------------------|-----------------------------|
| テープの巻き方 | 黒色粘着性ポリエチレン絶縁テープを半幅以上重ねて1回以上巻く。(2層以上) | ビニルテープを半幅以上重ねて2回以上巻く。(4層以上) |

1. 既設の分電盤との配線

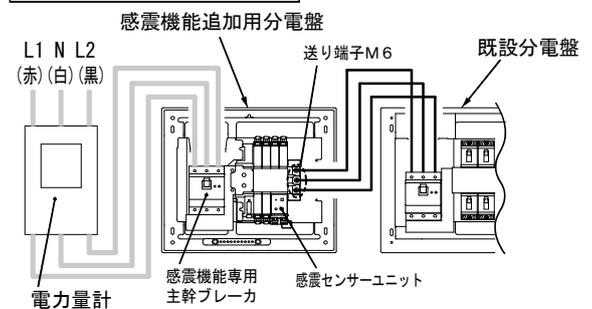
- ・接続電線はリミッターや主幹ブレーカの容量に適合した電線サイズを選定してください。(表面:『主幹ブレーカ・分岐ブレーカ推奨電線サイズ』を参照ください)

1) 基本配線図

リミッタースペース付

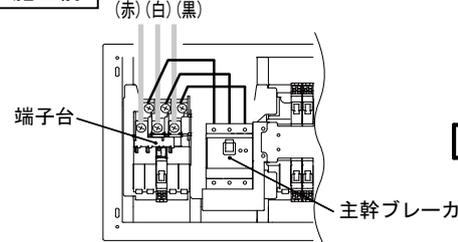


リミッタースペースなし

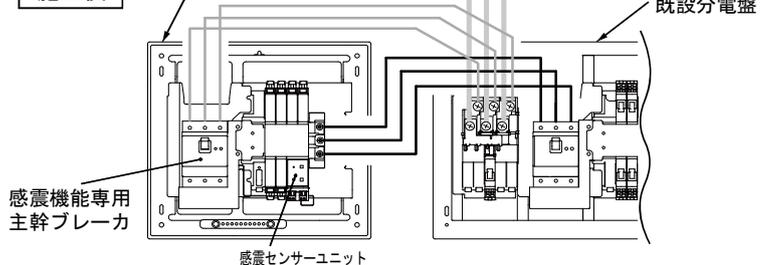


2) 端子台仕様の場合

施工前

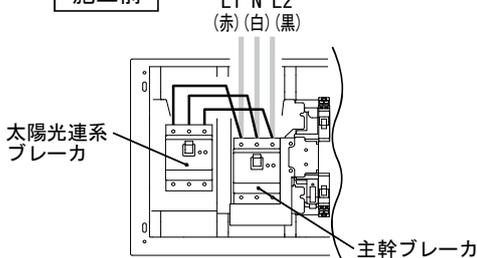


施工後

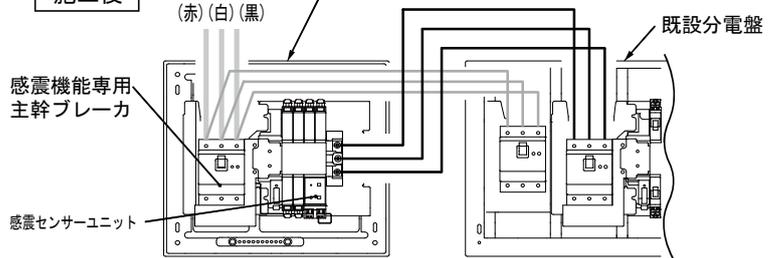


3) 太陽光1次送りの場合

施工前

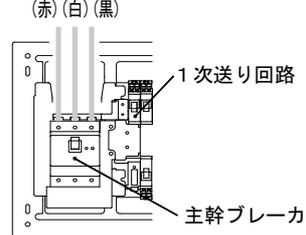


施工後

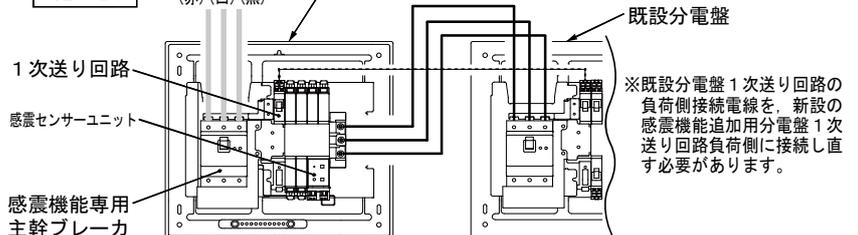


4) 1次送り回路付の場合

施工前



施工後



テンパール工業株式会社

■本店 〒732-0802 広島市南区大州3-1-42
代表 TEL(082)282-1341 FAX(082)282-8680

技術問い合わせ窓口 TEL(082)287-9110 FAX(082)283-4534

受付時間 9:00~17:30 [月曜日~金曜日(祝日、弊社休業日を除く)]